

事故自動緊急通報装置のロードマップについて

■令和5年度第3回検討会で承認された「自動車アセスメントロードマップ2024」における、「事故自動緊急通報装置」の方針は以下の通り。

2024年度：試験・評価方法検討（次世代）

2025年度：予備試験（次世代）

2026年度：開始可否を確認中

■2026年度以降の「次世代」の内容と開始時期を早期に決定することが、今後の更なる事故自動緊急通報装置の普及に繋がると考える。

自動車アセスメントロードマップ2024

※1.2

		2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度～	
予 防 安 全 性 能 評 価	衝突回避支援機能 ブレーキ	対車両	評価中止検討	中止					
		対歩行者(壁障)	評価内容検討 (予備データの活用等)	評価効率化検討					
		対歩行者(衝突・衝突あり)	2018年度～						
		対歩行者(衝突・衝突なし)	2019年度～						
		対自転車	評価内容検討 (機械化に伴う変遷)	評価効率化適用					
		交差点 1：対車両(右直)	予備試験	評価内容検討 (衝突ポイント)					
		交差点 2：右左折時の横断歩行者	予備試験						
		交差点 3：対車両(出庫・直進)	試験・評価方法検討	予備試験					
		交差点 4：その他(二輪など)	試験・評価方法検討	予備試験					
		後進時歩行者	実施可能時期・技術の妥当性を確認(他の技術との関係を整理)						
対対向車									
V2X	ユースケースの検討(V2N、V2I、V2V等)			試験・評価方法検討					
直進歩行用前照灯	2018年度～								
ペダル踏み間違い時加速抑制装置	試験・評価方法検討 (走行中・カス対応等)								
車線逸脱警報装置・車線逸脱抑制装置	車線逸脱警報装置：2014年度～ 車線逸脱抑制装置：2017年度～								
新規追加	・ドライバーモニタリングシステム ・ドライバー異常時対応システム ・自動運転技術	等	新規追加項目検討	調査・研究 (追加項目)	試験・評価方法検討 (追加項目)	予備試験 (追加項目)			
廃止検討	廃止検討		廃止検討		廃止検討		廃止検討		
衝突 安全 性 能 評 価	衝突回避支援機能 ブレーキ	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度～	
		新オフセット前面衝突開始に伴うダメージ変更							
		新オフセット前面衝突開始に伴い廃止							
		予備試験							
		評価中止検討	評価改善検討						
		2011年度～							
		試験・評価方法検討 (衝突ポイント拡大等の変更検討)	予備試験						
		予備試験 (aPL)							
		新規追加・項目検討	調査・研究 (追加項目)	試験・評価方法検討 (追加項目)	予備試験 (追加項目)				
		廃止検討	廃止検討	試験・評価方法検討 (次世代)	予備試験 (次世代)	開始可否を確認中			
追加新規項目検討	調査・研究 (追加項目)	試験・評価方法検討 (追加項目)	予備試験 (追加項目)						
情報 提供	衝突回避支援機能 ブレーキ	車内ごみ置き取り出し支援装置							
		交通情報提供システム(TSR)							
		新オフセット前面衝突(後部・側面・前方・側面)	試験評価法の検討	情報提供方法検討	予備試験				
		前面衝突安全性能	試験・評価方法検討 (R120対応)	予備試験					
		側面衝突安全性能	試験・評価方法検討 (R120対応)	予備試験					
		使用性	2001年度～						
		普及	普及方策の検討						
		CRD安全性能評価							
		CRD安全性能評価							
		CRD安全性能評価							

2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度～
試験・評価方法検討 (次世代)	予備試験 (次世代)	開始可否を確認中			

■2026年度～後席対応

⇒ベルト着用情報を活用した情報表示

■2028年度～交通弱者(歩行者・自転車)対応

⇒車両、接続機関、消防・病院が連携した運用面の検証を2027年度までに完了させ、
2028年度から評価対象とする

<事故自動緊急通報装置:現行>

2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度～
試験・評価方法検討 (次世代)	予備試験 (次世代)	開始可否を確認中			



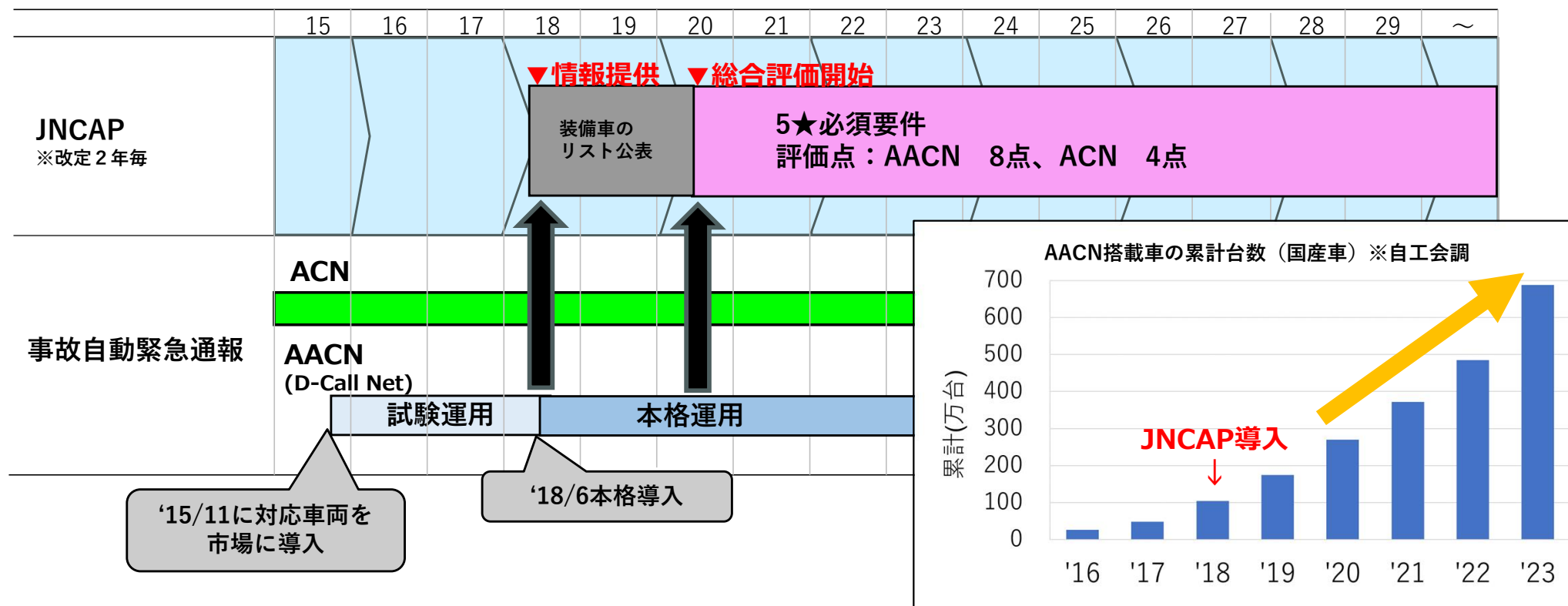
<事故自動緊急通報装置:改定案>

2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度～
試験・評価方法検討 (次世代)	予備試験 (次世代)	後席対応			
検証				交通弱者対応	

參考資料

1. 事故自動緊急通報（AACN）の普及状況

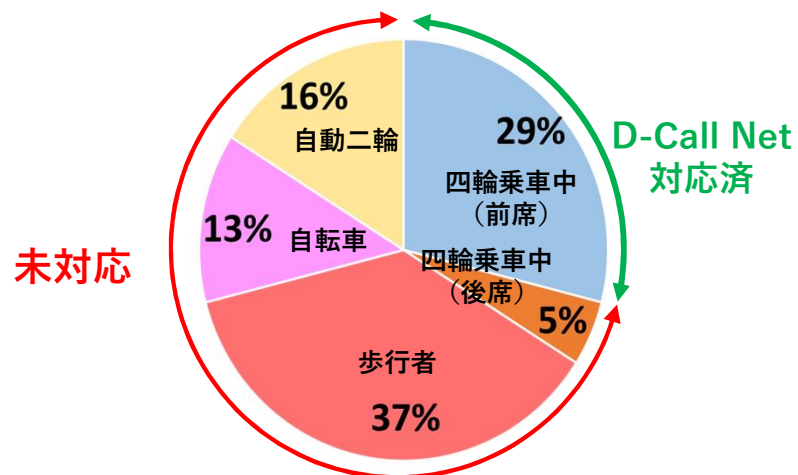
ACN (Automatic Collision Notification) : 事故自動緊急通報システム
AACN (Advanced ACN) : 先進事故自動緊急通報システム



JNCAP導入でAACNの普及が加速（JNCAPへの導入は普及に効果的）

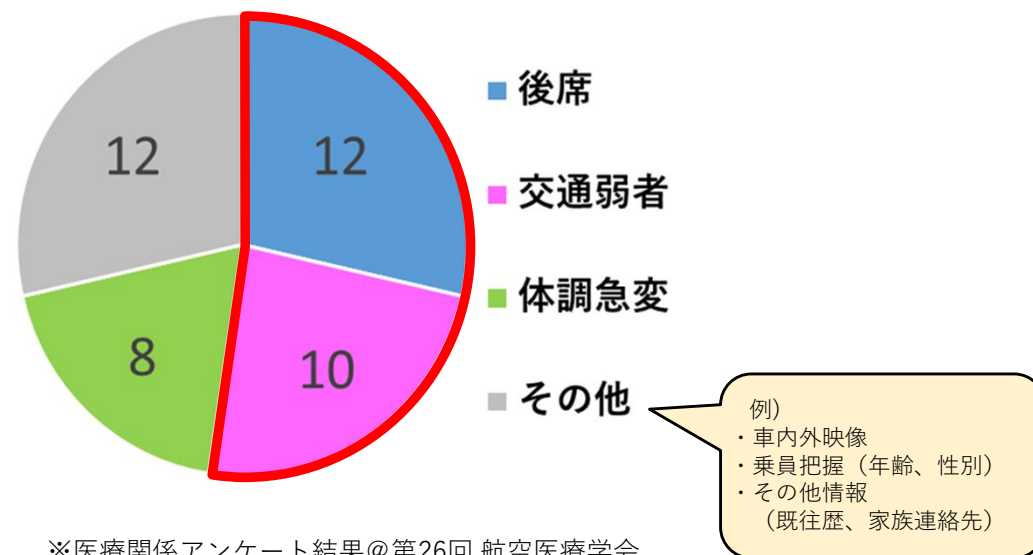
2. カバー範囲と今後に対する期待

■事故実態（状態別交通死者数）



※2019年度 警察庁データ 全体死者数3215人より
 ※乗車中の前席/後席割合はITARDAデータより算出

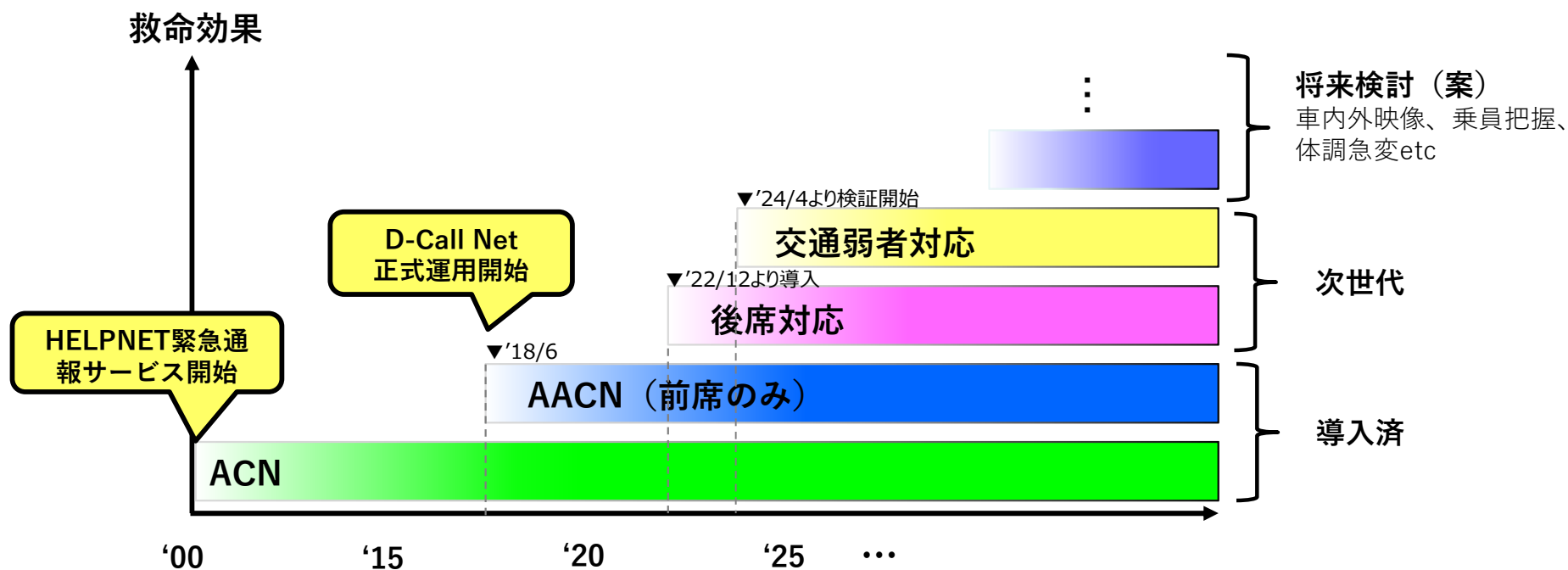
■今後に対する期待



※医療関係アンケート結果@第26回 航空医療学会

次世代として後席と交通弱者への適用拡大に取り組む

3. AACNのシナリオ



事故実態と現場の要望から救命効果向上に取り組んでいく

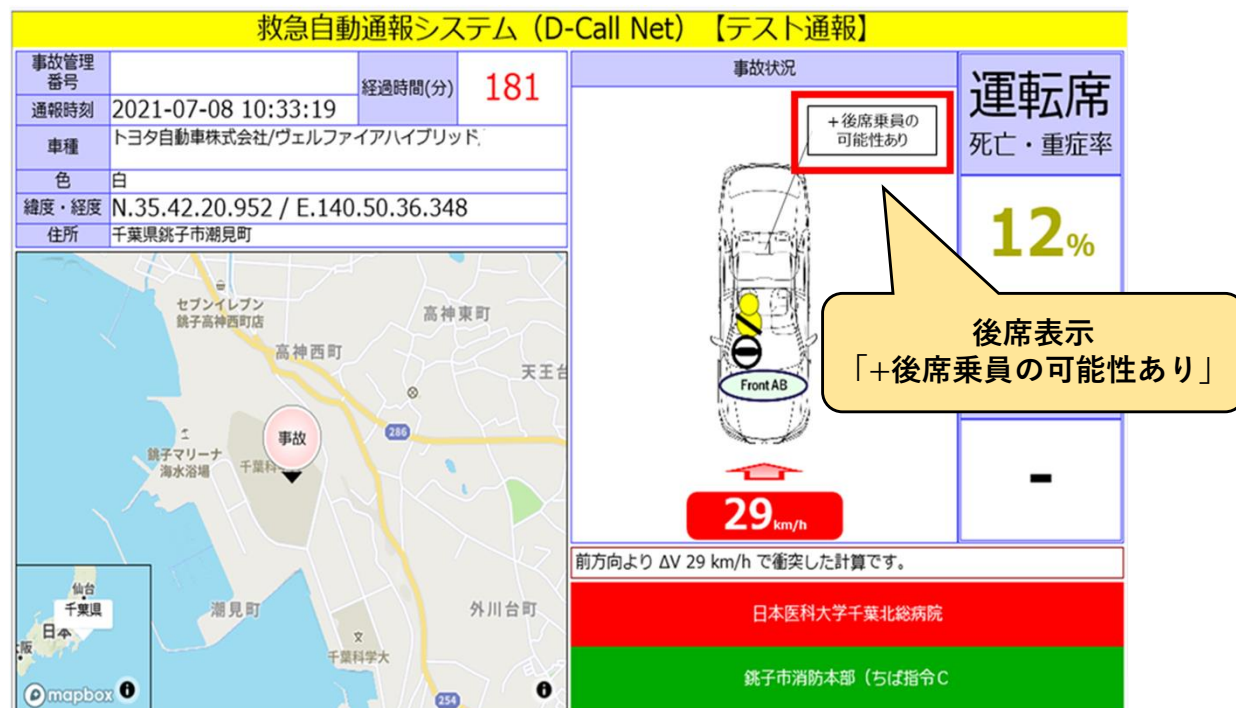
4. JNCAPへの次世代の提案 ① 後席対応

後席対応

ベルト着用情報を活用した情報表示 (’22/12～導入)

※現状は1社が導入
他社は導入に向け検討中

< 表示例 >

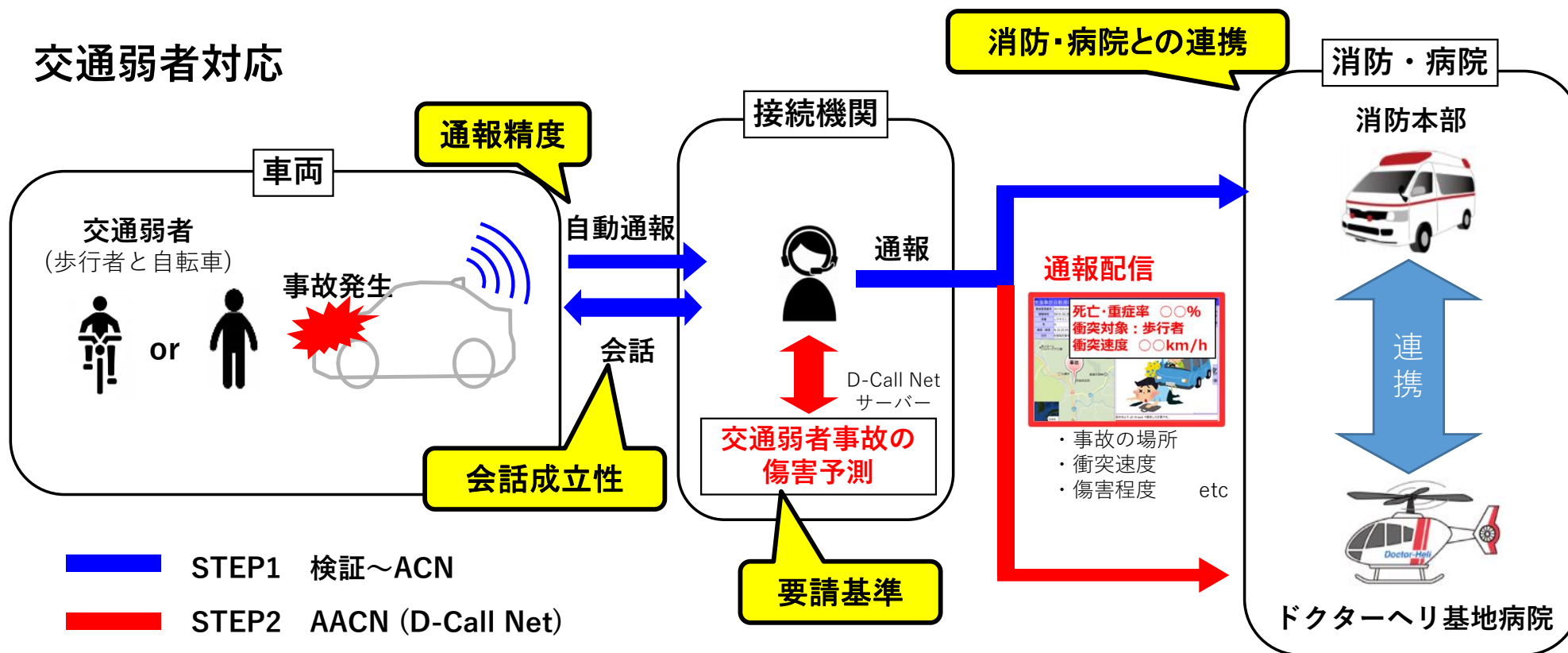


表示条件 : 後席ベルト情報有り & 後席死亡・重症率5%以上

JNCAP 26年度導入によって普及拡大させる

4. JNCAPへの次世代の提案 ②-1 交通弱者対応

交通弱者対応



実用化には3者（車両、接続機関、消防・病院）が連携した検証が必要
検証⇒ACN⇒AACNと段階的に導入させる

4. JNCAPへの次世代の提案 ②-2 交通弱者対応

検証項目

①通報精度の検証（車両⇒接続機関）

- ・ 車両 ⇄ 接続機関の通信確認（システムエラーが発生する通報パターンがないか）
- ・ 衝突の確からしさの確認

②会話成立性：システムを適切に運用できるかの確認（接続機関）

- ・ 運用オペレーション構築（様々な通報パターンに対する適切な対応）

③要請基準：傷害予測アルゴリズムの適正化（接続機関 ⇒ 消防・病院）

- ・ 実際の事故事例を検証し、適正な要請基準を作る

④消防・病院との連携

- ・ 交通弱者対応の理解獲得

市場で問題なくシステムが機能するか、狙った効果が出るかを検証する

4. JNCAPへの次世代の提案 ②-3 交通弱者対応

今後の日程（案）

